

2000/105

平成12年度 厚生科学研究補助金
(医療技術評価総合研究事業)

EBM を支えるリサーチライブラリアン養成についての調査研究

総括研究報告書

平成13年4月

平成12年度 厚生科学研究補助金
(医療技術評価総合研究事業)

EBMを支えるリサーチライブラリアン養成についての調査研究

総括研究報告書

平成13年4月

目 次

I. 総括研究報告

EBMを支えるリサーチライブラリアン養成についての調査研究	-----	1
中嶋 宏		
（資料1）第6回 CASP ワークショップ関連資料		
（資料2）第3回 EBM リサーチライブラリアン・ワークショップ関連資料		
（資料3）第1回 EBM 時代の医学メディアのあり方・ワークショップ関連資料		

厚生科学研究費補助金（医療技術評価総合研究事業）
総括研究報告書

EBMを支えるリサーチライブラリアン養成についての調査研究

主任研究者 中 嶋 宏 国際医療福祉大学 国際医療福祉総合研究所 所長

研究要旨

ここ数年わが国の医療現場において、EBMの普及に対する要求が高まってきた。情報基盤を整備し活用を促すものとして、「リサーチライブラリアン」を緊急に養成する必要がある。3年計画の第2年度である本年度研究は、平成10年度研究の成果物として出版されたテキスト利用し、その効果を確認するとともに、新たな取り組みとして、エビデンスを「つたえる」立場にある医学雑誌の編集者を対象としたワークショップが開発・実施を試みた。その結果、各ワークショップの教育効果は、教材・プログラムに見直しにより前年度よりも向上したと思われる。また、本年度新たに取組んだ医学雑誌の編集者を対象としたワークショップに関しては、不十分な点も多く、改善する必要があることが示唆された。

分担研究者氏名・所属施設名および所属施設における職名

津谷喜一郎 東京医科歯科大学 難治疾患
研究所 情報医学研究部門（臨床薬理学）
助教授

岩崎理香 国際医療福祉大学大学院 医療
福祉経営専攻 国際医療福祉総合研究所
講師、研究員

A. 研究目的

ここ数年わが国の医療現場において、EBMの普及に対する要求が高まってきた。この定義の通り、実際に診断方法を選択・決定するのは医師の役割であるが、わが国においては、今日の膨大な量の医学論文から「利用可能な最善の科学的な根拠」を得るための情報基盤整備は遅れている現状がある。そのため、情報基盤を整備し活用を促すものとして、「リサーチライブラリアン」を緊急に養成する必要がある。

そこで、本研究は、先行研究である平成10年度厚生科学特別研究「リサーチライブラリアン養成についての調査研究」（以下、平成10年度研究）を引き継ぐものとして、その目的は広くEBMに関わる情報関係者のための教育プログラムの開発と実際の人材養成である。3年計画の第1年度

は、平成10年度研究において開発された教育プログラムの改良と実際の使用に重点をおいて実施された。第2年度である本年度研究においては、平成10年度研究の成果物として出版されたテキスト「EBMのための情報戦略」（監修：中嶋宏、編集：津谷喜一郎、山崎茂明、坂巻弘之、出版：中外医学社）を利用し、その効果を確認するとともに、新たな取り組みとして、エビデンスを「つたえる」立場にある医学雑誌の編集者を対象としたワークショップが開発・実施を試みた。また、今年度研究は、より広範な地域のリサーチライブラリアンを養成することを目的として、大阪および名古屋でのワークショップも実施した。

B. 研究方法

主任研究者は、EBMを支えるリサーチライブラリアン養成についての調査研究（総括）を、分担研究者は、研究デザイン教育とハンドサーチの方法論に関する研究、リサーチライブラリアン養成プログラム・教材の効果測定に関する研究をそれぞれ担当した。

本年度研究は、次に挙げる3つのワークショップを実施し、その参加者に対するアンケート調査をもとにそれぞれのワークショップおよび教材の有効性を評価した。

1) 第6回 CASP ワークショップ

平成 12 年 7 月 22 日(土)、23 日(日)名古屋大学医学部で開催。トレーニーとして大学・病院図書館関係者を中心とする 24 人、トレーナーとして 7 人、準備のための研究協力者・スタッフ 6 人、合計 37 人が参加した。本ワークショップは、イギリスで 1993 年に開発された、新しい参加型の教育方法を取り入れたもので、短時間に研究デザインを理解し論文の内容を把握する手法である。

2) 第 3 回 EBM リサーチライブラリアンワークショップ

平成 12 年 9 月 12 日(火)、13 日(水)に大阪 YMCA 会館で開催。トレーニーとして大学・病院の図書館関係者を中心とする 31 人、トレーナーとして 12 人、準備のための研究協力者・スタッフ 6 人、合計 49 人が参加した。昨年度の教育プログラムを改良し、教材は前述の「EBM のための情報戦略」を主とし、それを補足するものとして当日の Power Point 投影物の印刷ファイル 1 冊、他参考書として「わかりやすい EBM 講座」を用い、時間配分もそれぞれの理解がより進むように調整した。なお、東海地区を中心とする集中豪雨の影響で予定通りに会場へ来ることができない講師が多数いたため、プログラムが大幅に変更された。

3) 第 1 回 EBM 時代の医学メディアのあり方ワークショップ

平成 12 年 11 月 16 日(木)、17 日(金)に国際医療福祉大学東京事務所で開催。トレーニーとして医学雑誌編集者を中心とする 18 人、トレーナーとして 9 人、準備のための研究協力者・スタッフが 6 人、合計 33 人が参加した。

本プログラムは、医学雑誌の編集者を対象としたワークショップとして、通常のリサーチライブラリアンワークショップの教育プログラムに修正を加えるかたちで今回新たに開発された。教材は同様に前述の「EBM のための情報戦略」を主とし、それを補足するものとして当日の Power Point 投影物の印刷ファイル 1 冊、他参考書として「わかりやすい EBM 講座」を用い、時間配分もそれぞれの理解がより進むように調整した。

C. 研究結果

各ワークショップ参加者を対象に、EBM に関する基礎知識やワークショップに対する評価を問うアンケート調査、ワークショップの教育効果を確認するための小テストを実施した。

1) 第 6 回 CASP ワークショップ

アンケート調査は、参加 37 人中事前アンケート 23 人、事後アンケート 25 人が回答した。

2) 第 3 回 EBM リサーチライブラリアンワークショップ

アンケート調査は、参加 49 人中 25 人が回答した。小テストは、トレーニー 31 人中 28 人が回答し、平均点は 62.9 点であった。

3) 第 1 回 EBM 時代の医学メディアのあり方ワークショップ

アンケート調査は、参加 33 人中 12 人が回答した。小テストは、トレーニー 18 人中 9 人が回答し、平均点は 75.6 点であった。

なお、詳細は資料 1 から資料 3 の通りである。

D. 考察

1) 第 6 回 CASP ワークショップ

図書館司書を主な対象にした CASP ワークショップは本研究での開催は 2 回目であるが、前回と比較すると概ね次のようであった。

①教材で取り上げた論文

日本語でかかれた論文を採用したため、より深い理解が得られた。ワークショップ参加後の基礎知識(資料 1、図 1-8)においても、その傾向がうかがえる。

②統計学の基礎について

前回のワークショップにて、「統計学の基礎を学びたい」という意見が多かったため、今回のワークショップでは統計学の基礎を扱った講義も取り入れた。しかしながら、今回のワークショップ後のアンケート調査においても、「統計の基礎がないと難しい」、「講義にじっくり時間をかけた方が良い」という意見が見られ(資料 1、表 1-5)、更なる改善が求められた。

③会場について

今回は、セッションごとに会場の移動が必要だったため、前回のワークショップでは見られなかった「会場の移動は無い方が良い」という意見が見られた(資料 1、表 1-4)。

2) 第 3 回 EBM リサーチライブラリアンワークショップ

アンケート調査の結果を前年度ワークショップと比較すると、概ね良好な結果が得られており、より成熟度が増したものとなったと思われる。その他特に注目される点を挙げると、

①テキストについて

今回のようなテキストの形態(出版物 1冊と投影物印刷ファイル)は、前回のワークショップで指摘された、「投影内容の印刷物がほしい」という意見を取り入れた改善であったが、これについては理解が得られたものと思われる。しかしながら、「投影物の文字が小さすぎる」といった意見が見られ(資料 2、表 2-17)、今後更なる改善が必要であることが示唆された。

3) 第 1 回 EBM 時代の医学メディアのあり方ワークショップ

アンケート調査の結果を他のワークショップと比較すると、概ね良好な結果が得られており、医学雑誌編集者を対象としたものとして適切な内容であったと思われる。しかしながら、開催時間について、「日中の方が望ましい」という意見や、案内の方法について、「各社のしかるべき担当者に届いていたか疑問である」という意見が見られ、今後の改善が望まれる。その他特に注目される点を挙げると、

①フリーディスカッションについて

最後のセッションにおいてフリーディスカッションの時間が設けられたが、概ね好評であった(資料 3、表 3-12)。

②構造化抄録について

印象に残った点として、構造化抄録を扱ったセッションを挙げるものが多く、第 1 時情報の提供者としてその必要性を感じていることがうかがえた(資料 3、表 3-6、表 3-12)。

E. 結論

本研究の各ワークショップにて教育を受けたリサーチライブラリアンは、大学・病院等図書館員として、データベース作成者として、構造化抄録の推進者として、EBM の実践のための情報基盤作成に対する貢献が期待される。

本年度の教材とワークショップに対する意見により、より質の高い教育プログラムと教材開発が期待される。

F. 研究発表

なし

G. 知的所有権の取得状況

なし

資料 1

第 6 回 CASP ワークショップ関連資料 (2000 年 7 月 22 日(土)、23 日(日)、名古屋開催)

目次	page
1. 第 6 回 CASP ワークショッププログラム	6
2. 第 6 回 CASP ワークショップ参加者名簿	7
3. 第 6 回 CASP ワークショップ要旨	8
4. アンケート解析結果	10
(1) 第 6 回 CASP ワークショップ参加者の参加前の EBM 関連用語の知識、および検索などの経験	10
(2) 第 6 回 CASP ワークショップの評価	12
1) 段階評価	12
2) 自由記述による評価	14
(3) 第 6 回 CASP ワークショップの参加後の EBM 関連用語の知識	18

1. 第6回 CASP ワークショッププログラム

2000年7月22日(土) 12:30 ~ 16:40

12:30 ~ 受付開始 (名古屋大学医学部講義室)

13:00 ~ 13:10 オリエンテーション

福岡 敏雄 (名古屋大学 医師)

13:10 ~ 14:00 会議: あなたの疑問は何? RCTを読んでみよう

福岡 敏雄 (名古屋大学 医師)

北澤 京子 (日経 BP 社)

14:00 ~ 16:00 スモールグループディスカッション1

ファシリテーター: 大沢 功 (名古屋大学 医師)

金子 善博 (東京医科歯科大学 医師)

北澤 京子 (日経 BP 社)

津谷 喜一郎 (東京医科歯科大学 助教授)

中山 健夫 (国立がんセンター 医師)

福岡 敏雄 (名古屋大学 医師)

16:00 ~ 16:40 まとめ

加藤 史香 (国立名古屋病院)

福岡 敏雄 (名古屋大学 医師)

2000年7月23日(日) 8:30 ~ 15:30

8:30 ~ 9:10 痛みを伴わない統計学

中山 健夫 (国立がんセンター 医師)

9:10 ~ 9:50 バイアス三昧

津谷 喜一郎 (東京医科歯科大学 助教授)

9:50 ~ 11:30 finding the evidence "PubMed"で Medline を検索してみよう

福岡 敏雄 (名古屋大学 医師)

11:30 ~ 12:00 まとめ

福岡 敏雄 (名古屋大学 医師)

12:00 ~ 13:00 昼食・休憩

13:00 ~ 13:15 体系的レビューを読んでみよう

福岡 敏雄 (名古屋大学 医師)

13:15 ~ 14:45 スモールグループディスカッション2

ファシリテーター: 大沢 功 (名古屋大学 医師)

金子 善博 (東京医科歯科大学 医師)

北澤 京子 (日経 BP 社)

津谷 喜一郎 (東京医科歯科大学 助教授)

中山 健夫 (国立がんセンター 医師)

福岡 敏雄 (名古屋大学 医師)

14:45 ~ 15:30 まとめとフィードバック

加藤 史香 (国立名古屋病院)

福岡 敏雄 (名古屋大学 医師)

2. 第6回 CASP ワークショップ参加者名簿

トレーニー

No.	氏名	所属	部署名
1	入山 美智子	名古屋大学附属図書館	医学部分館
2	渡邊 通江	名古屋大学附属図書館	医学部分館
3	飯田 育子	浜松赤十字病院図書室	
4	江口 愛子	浜松医科大学附属図書館	
5	安田 多香子	愛知県がんセンター図書室	
6	河合 富士美	聖路加国際病院	医学図書館
7	岩石 隆光	株式会社 毎日新聞社 東京本社	毎日ライフ・JAMA 日本語版
8	輿石 徹	東京医科大学八王寺医療センター	薬剤部
9	足立 郁子	小牧市民病院	図書室
10	松本 直子	聖路加看護大学図書館	
11	藤井 揚子	名古屋市立大学	川澄分館
12	泉 峰子	国立公衆衛生院附属図書館	
13	塩見 橋子	大阪大学附属図書館生命科学分館	医学情報課
14	江尻 美砂	公立陶生病院	図書・医療情報室
15	戸上 康弘	ノバルティスファーマー 株式会社	科学情報グループ
16	伊藤 淑子	大阪歯科大学図書館	
17	宮岸 朝子	武庫川女子大学附属図書館	薬学分館
18	塩沢 千文	飯田女子短期大学図書館	
19	中村 規子	住友製薬株式会社	経営情報室
20	大橋 真紀子	社会保険中京病院	図書室
21	小倉 文子	名古屋大学附属図書館	医学部分館情報管理掛
22	八田 和子	名古屋大学附属図書館医学部分館	保健学情報資料室
23	里川 得美子	国立療養所三重病院	図書室
24	四谷 あさみ	愛知淑徳大学	図書館
25	平田 直紀	医学中央雑誌刊行会	編成課

トレーナー

No.	氏名	所属
1	大沢 功	東京医科歯科大学
2	金子 善博	東京医科歯科大学
3	北澤 京子	日経 BP 社
4	津谷 喜一郎	名古屋大学
5	中山 健夫	京都大学大学院医学研究科
6	福岡 敏雄	名古屋大学

他に準備のための研究協力者・スタッフ7人を要した。

3. 第6回 CASP ワークショッププログラム要旨

2000年7月22日(土)

会議：あなたの疑問は何？ RCT を読んでみよう

前半は、本ワークショップの参加目的を明確にするために、隣り合う数名で、「CASP で何を学びたいか」というテーマでのディスカッションの後、それぞれの意見が発表された。ここでは、「臨床疫学や統計について学びたい。」、「PubMedなどの検索法を学びたい。」、「EBMと図書館のかかわりを学びたい」などの意見が出された。

後半では、CASPとは何かということを知るために、財布の広告記事を題材にしたディスカッションを通じて、CASPの本質である批判的吟味がどのようなものか学んだ。

スモールグループディスカッション1

このセッションは、参加者を3つのグループに分けたグループディスカッション形式で行なわれた。最近一般の人々の間でも話題となっているガルシニアダイエットに関して、やせ薬としてのガルシニアの有効性を検討した臨床論文¹⁾を取り上げ、その結果の信頼性を討議した。

1) Steven B. Heymsfieldら、「やせ薬としての *Garcinia cambogia*(ヒドロキシクエン酸)」、JAMA 日本語版(1998)10月号、104-110.

まとめ

スモールグループディスカッション1で議論された内容について、各グループの結果が発表され、これをもとに参加者全体で議論がなされた。

2000年7月23日(日)

痛みを伴わない統計学

このセッションではまず、「少年法の厳罰化」など身近な話題を取り上げ、臨床研究において比較対照をおく必要性や、論文を読む際に分母が何かを確認する必要性など、論文を読む際の基本的な事項が述べられた。次に、医学研究デザインにはどのような種類があるか述べ、それぞれの特徴やエビデンスの強さなどが解説された。最後に、論文を読む際に頻出するオッズ比などの語句の意味について、詳細な説明がなされた。

バイアス三昧

このセッションでは、「薬用養命酒」や「エステ効果」といった身近な話題を交えながら、医学研究のデザインと、それに伴って発生するバイアスが解説された。

finding the evidence "PubMed"で Medline を検索してみよう

このセッションでは、数名ずつのグループに分かれて、実際にインターネット回線を用いた PubMed の検索演習が行なわれた。前半で、具体的事例に基づいた検索演習が行なわれ、検索式の立て方などを学び、後半では、自由時間が与えられグループごとに検索演習が行なわれた。

体系的レビューを読んでみよう

スモールディスカッション 2 のための基礎知識として、体系的レビューとはどういうものか解説がなされた。

スモールグループディスカッション 2

このセッションは、前日と同様にスモールディスカッション形式で行なわれたが、今回は参加者を 4 つのグループに分けた。ここでは、体系的レビューの読み方の習得を目的として、アスピリンと脳出血に関するメタアナリシス²⁾を取り上げ、レビュー論文を選別するためのポイントについて議論された。

2) Jiang He, MD, PhD ら、「アスピリンと脳出血発作の危険性」、JAMA 日本語版(1999)11月号、74-81.

まとめとフィードバック

スモールグループディスカッション 2 で議論された内容について、各グループの結果が発表され、これをもとに参加者全体で議論がなされた。

4. アンケート解析結果

(1) 第6回CASPワークショップ参加者の参加前のEBM関連用語の知識、および検索等の経験

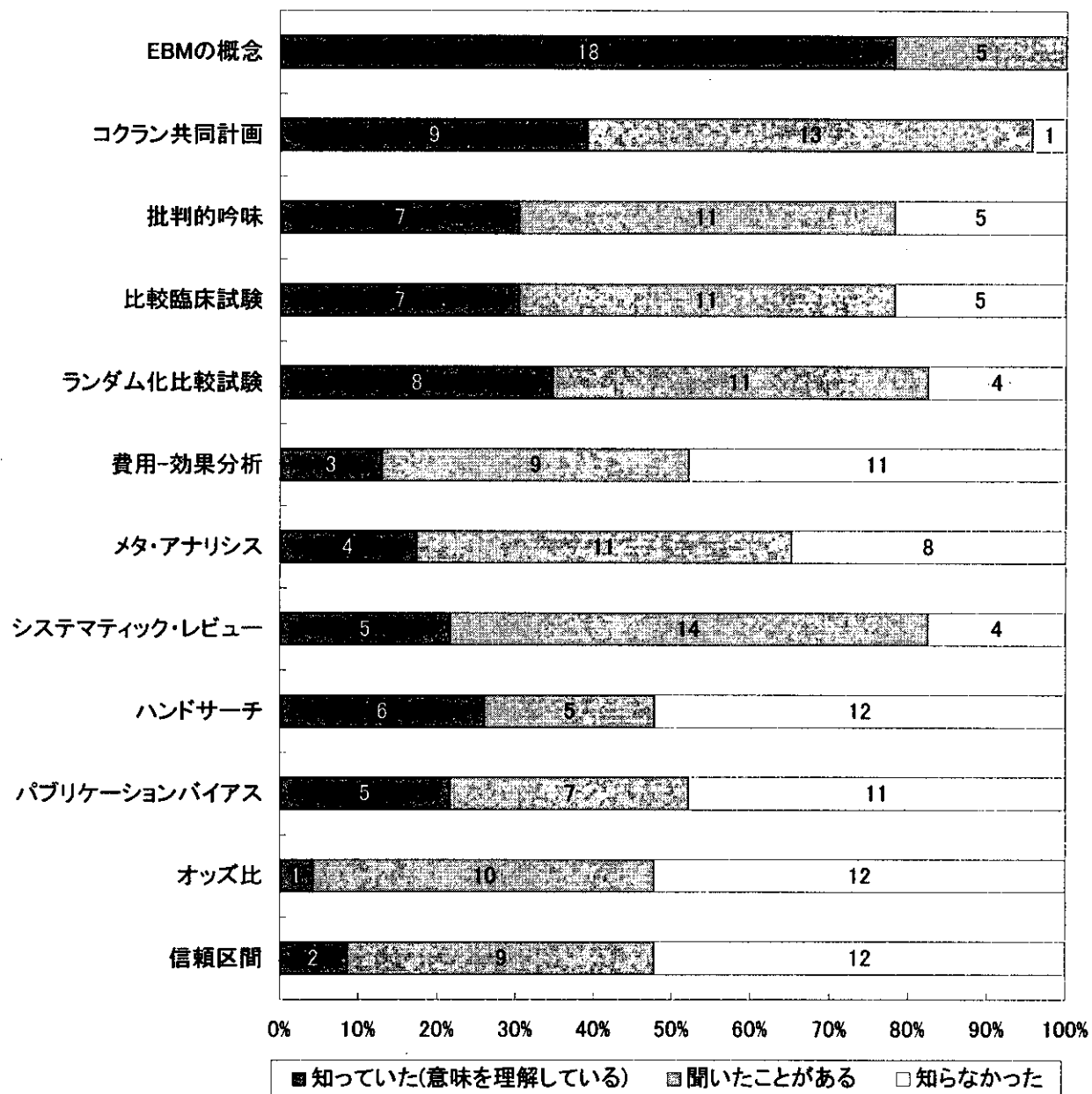


図1-1 対象者のEBMの概念および用語に対する知識

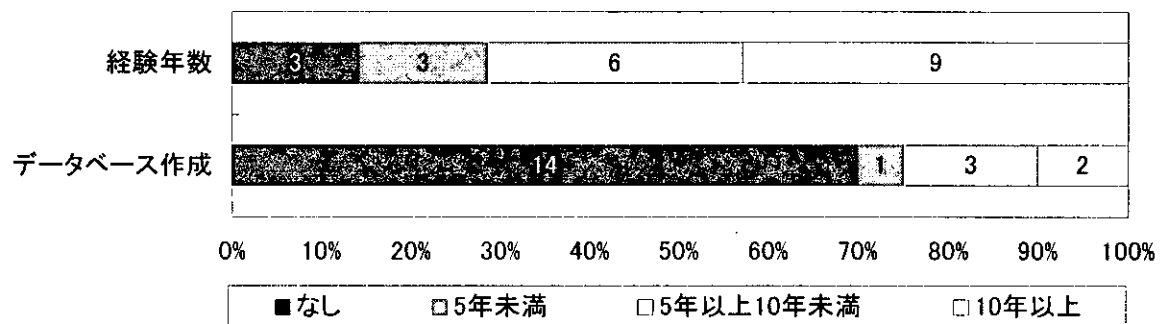


図1-2 検索およびデータベース経験

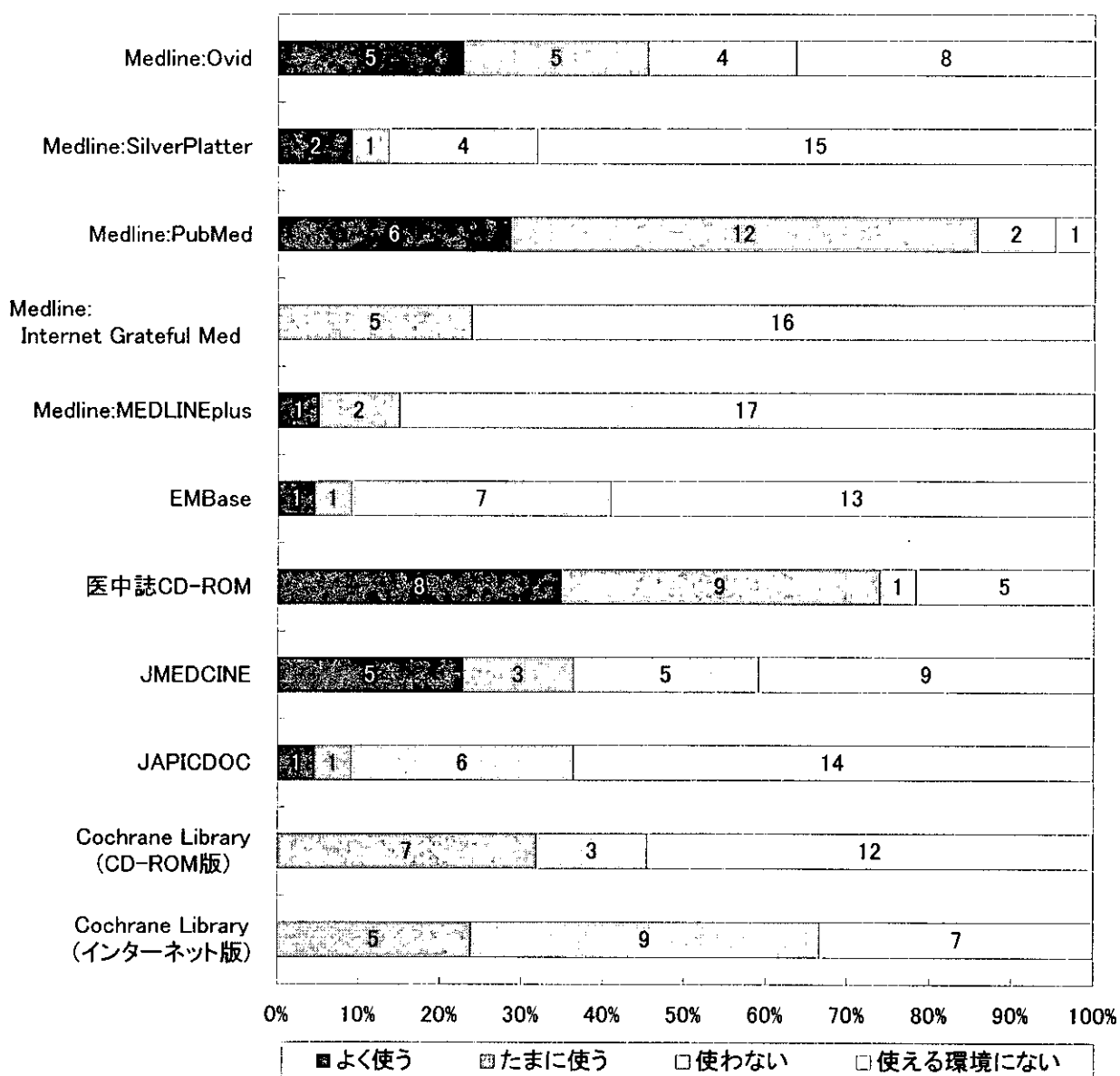


図1-3 データベース利用状況

(2) 第6回CASPワークショップの評価

1) 段階評価

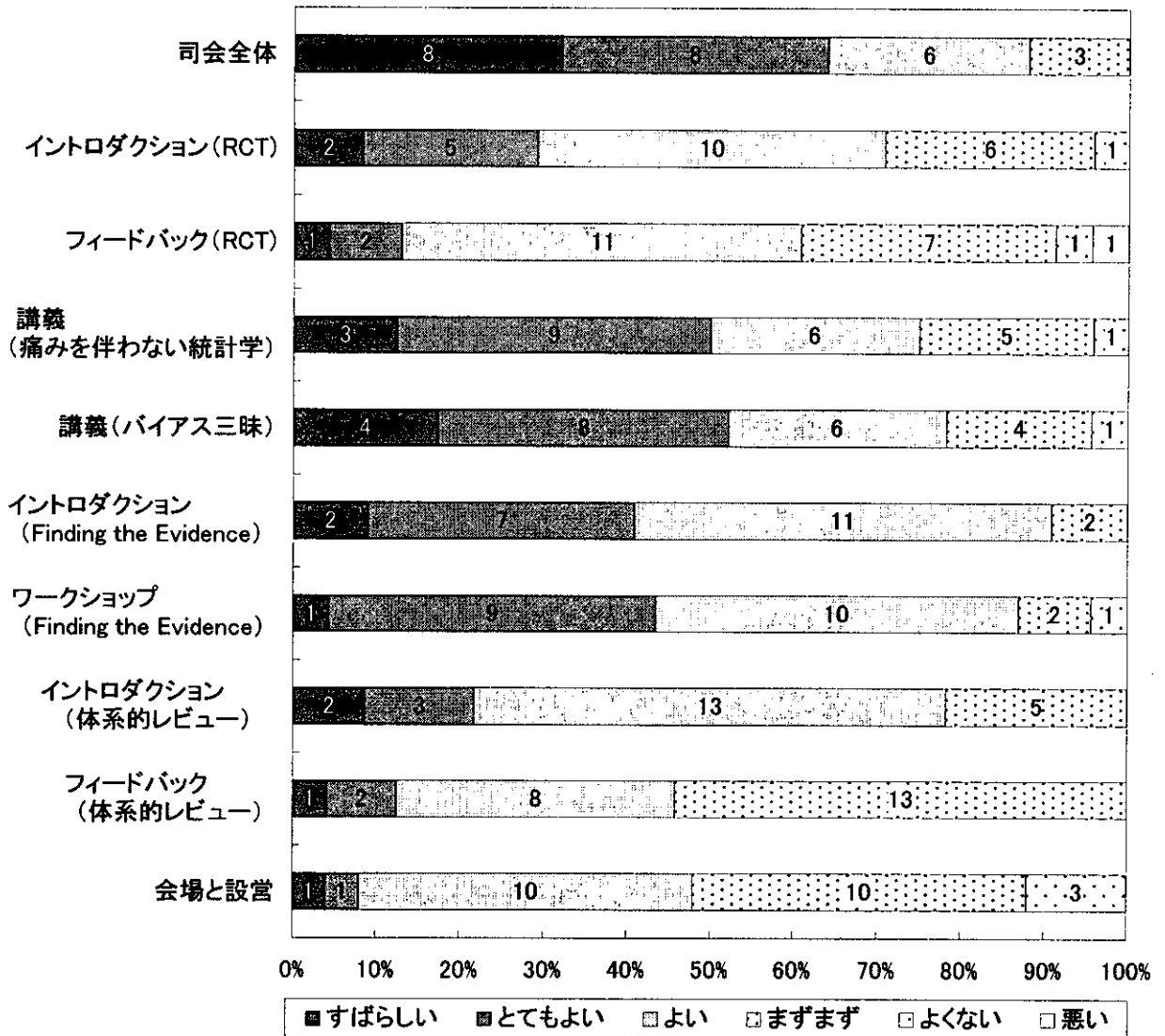


図1-4 ワークショップの評価

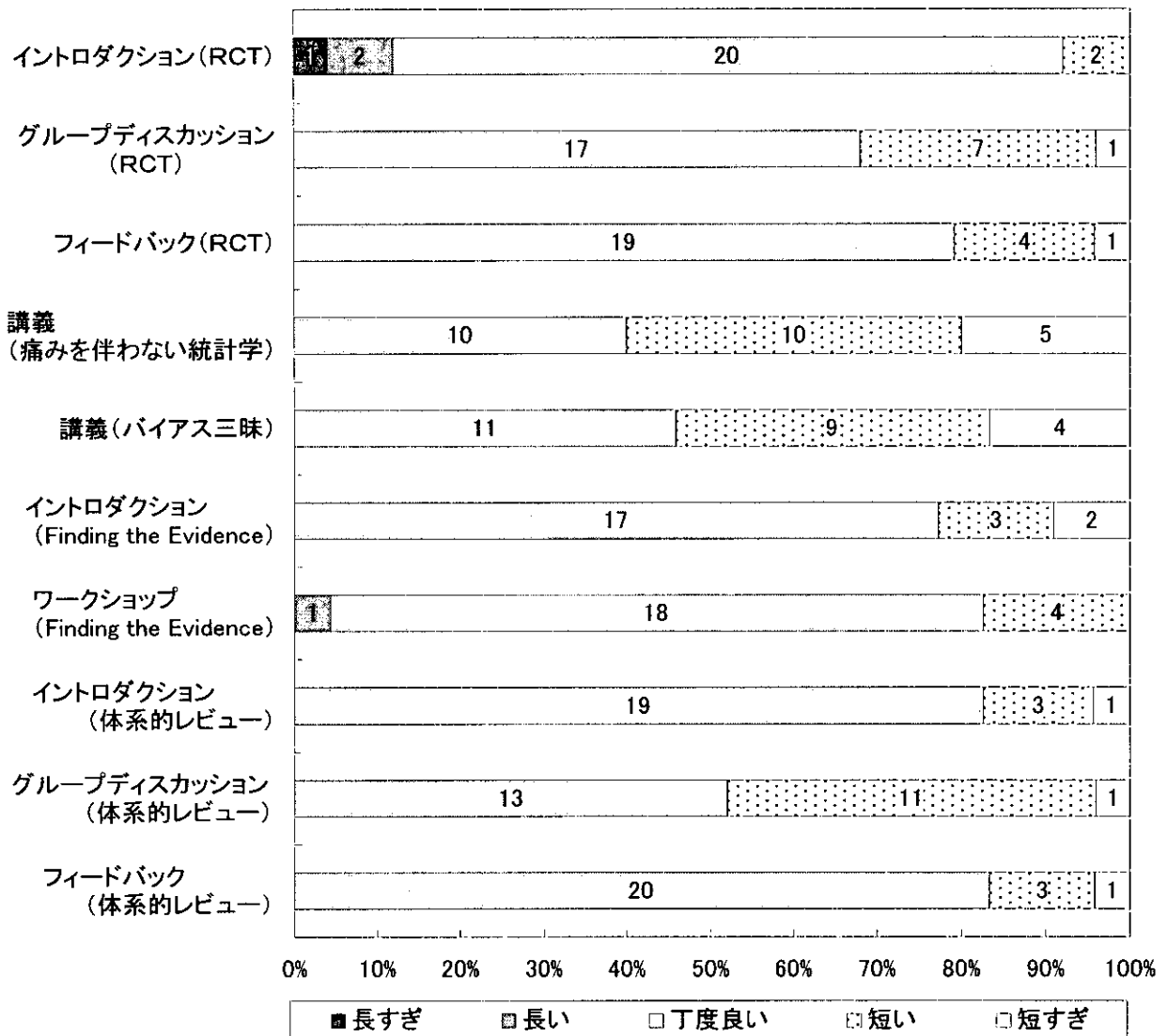


図1-5 ワークショップの長さの評価

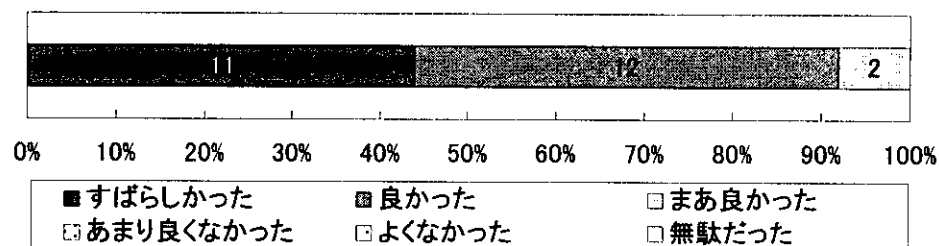


図1-6 ワークショップ全体の評価その1

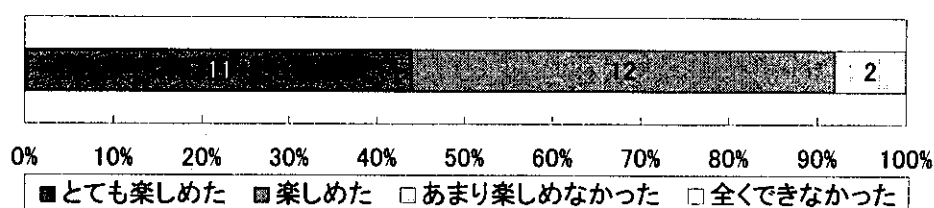


図1-7 ワークショップ全体の評価その2

2) 自由記述による評価

表1-1 インTRODクシヨンに関する意見

1. 受講対象によりイントロを変えたらどうでしょうか。今回は図書館員が多かったので例え話(財布の話)は短くても入って行けたと思います。
2. 司書にはあまり必要ないと思われる。
3. もう少し現実的な話題でもよいのでは？
4. 時間をもう少し長く取り、前回までのCASP参加者にもっともっと意見を言ってほしい。
5. もっと視覚にうったえる。
6. 特にコメントはありません。
7. とても良かったと思うが、SRは手法が理解しにくく、論文の質の評価と内容を判断にいかす間がひろい。

表1-2 グループディスカッションに関する意見

-
1. 何をするのかわけが分からず、仕事の方が忙しく、前置の論文を読むまでしか進まなかった。
 2. 論文の読み方がよくわからなかったので、「とりあえず」にしか読みませんでした。ディスカッションはとてよかったのですが、時間切れの感じで論文全体の解説(医師がどう読んで行くのか)がほしかったです。
 3. (論文内容が読み取れなかった。これは個人的問題かもしれませんが。)
 4. 論文の概念とか種類を最初に学ぶとよかった。この論文はそのうち、「試薬に関する論文」という事をつかむのに少し時間がかかった。
 5. 初めての参加でレベルが高くて理解しにくかった。グループを初心者と経験者にわけたらどうでしょうか？
 6. 最後の方は時間が少なくなってしまうので時間配分をきちんとした方が良いと思う。
 7. マニュアルに回答の仕方、理由(根拠となる記述部)の例があれば初めての人は回答しやすいように思う。
 8. グループの人数を7~8人にする。
 9. 自分の事前準備不足を反省
 10. まちがっていても、意見をもっと出し合えば良くなると思う。
 11. 初心者にはスピードが速すぎるので、もう少しゆっくり進んでほしい。RCTでもそうですが、まとめとして論文全体の解説をしてほしかったです。
 12. 事前準備不足を反省
 13. 前もってもっとしっかり論文を読む。
-

表1-3 フィードバックに関する意見

-
1. 時間を十分取って、最後にこの論文の読み方のポイントをまとめていただけるとよかったと思います。
 2. もう少し内容を深めた解説を望む。
 3. 各グループの各々の結果に至る過程を教えて頂きたかった。
 4. 解決できないまま、あいまいなまま終わってしまった様な感じもあるので(しかし、答がでないというのも1つの答かもしれない)結びをきちんとした方がよいと思う。
 5. 討議の時間をもっと持てるといいと思う。
 6. 最後に模範解答のようなものをプリントにして配布しては？
 7. sgが終わって直後よりも、間20分程度おいて、それぞれのsgの様子をfacilitatorが共有する。
 8. 時間がなくてディスカッションやQ&Aが十分でなかったように思えます。
-

表1-4 会場や設備に関する意見

-
1. 会場の移動は少ない方がよいと思います。迷って遅れてしまった方はお気の毒でした。
 2. あらかじめグループを決めておいて、移動時の人数確認ができるといいと思います。
 3. 移動が少なければ
 4. 講義室が広すぎたような気がします。
 5. 建物の構造上、仕方がないことですが、会場がわかりにくかった。
 6. 場所が少しわかりにくい。
 7. 会場と会場との移動距離(時間)を短くする(無理な注文でしょうが)。
 8. 休日を利用しなければ、小人数か参加できないので主催者側の最大の工夫のような
 9. 講義も含めてもう少しLOA機器の充実した場所で行なえばなおよかったのでは？
 10. お金をかける。場所も良かった。
-

表1-5 企画の向上への意見

1. とてもわかりやすく講義して下さいましたが、統計の基礎知識がない場合むずかしい内容です。ゆっくり、はしょらずで最後までじっくり訓えていただければよかったですと思います。
2. 1日～半日くらい時間を掛けて学びたい。
3. 講義がとても駆け足だったので、もっとじっくり時間があるとよかった。
4. 今回は突然、何とか2つの講義を短時間でこなうことになったので仕方ないと思うが、もう少しゆっくり講義を受けたかった。
5. もう少し時間をかける。
6. 上記5と同じで、2倍位の時間が必要だと思います。
7. (講義内容は分かって、その先が見えないといった感じも少々持ちました。)
8. 選択式であれば、演者の1、2行のコメントを付けておく。やはりもともと別に行なうものであったか。CASPの統計の日本語訳があると良いと思います。

表1-6 ワークショップに関する意見など自由記述

1. 検索演習は同じテーマで全員(各グループ)で行ない、後でディスカッションして、一番効率的な検索方法を見つけるのがよかったのでは。
2. 次段階としてもっと時間を掛け、色々なバリエーションで実施すると良い。(しかし疲れる)
3. 同じく、参加できませんでした。
4. Evidenceのための具体的な検索式をもっと教えて頂きたかった。
5. パソコンを前にして例題を解いていくあのやり方が1番わかりやすいのではないのでしょうか。
6. マウスを使えるようにする。
7. パソコンの数をもう少し増やしては？
8. 具体的なtargetをさだめる。
9. 業務としてはこんなことまでやっておりませんが勉強になりました。
10. EBMの意義(必要性?)・概論、EBMRの検索方法(実技)
11. 今まで参加した研修会の中でも、特に役立った内容でした。本当に勉強になりました。講師の先生方とスタッフの皆様にご心からお礼申し上げます。
12. EBMからの医学文献の読み方を具体的に実習できて、とても良かった。
13. 初めて参加して、ようやくEBMが何なのかが、わかりかけてきたと思う。
14. とても刺激になりました。図書館員として一つの方向を示されたようです。
15. あんなに楽しく勉強できるとは思っていませんでした。参加したからといって満足せず、今後勉強してみたいと思いました。
16. 病院図書室での勤務のためなかなか現在今回学んだ事を活かすことは機会が少ないが、刺激になってとてもよかった。
17. 論文の読み方を他の方とグループワークで習得でき実に楽しく、かつ有益な知識を得られた。
18. EBM、CASPが身近なものになりました。
19. 文献だけでは理解出来なかったが、少し糸口がつかめかけた感じ
20. とても勉強になりました。少しわかったので興味がわいてきました。
21. 是非これからも参加したいです
22. 福岡先生の司会進行はとても聞きやすく、リラックスしてとりくむことができました。初参加だったのでずいぶん恥もかきましたが、その分とても成果も大きかったと思います。
23. 批判的吟味の概念理解が少しずつ進んだが、奥が深いので判断が難しい。
24. facilitatorの仕方がまだ良く分からない。司会でもなければ先生でもない立場はパーソナリティーに大きく依存するのでは？

25. 名大医学部で開催ということで参加しました。日常業務に追いかけて、正直こんなことまでやっているところがあるとは思っていませんでした。他業務をやる場合の参考になりました。
26. EBMといった場合、その目的・概念の理解もないままに、方法論のみ(特に検索方法)の理解(する途上…)でした。何のためのEBMか、EBMとは何かということが、今回のワークショップでの経験を通じて少しだけですが、わかりかけてきたことが、よかったと思います。来年度も大学院生向けの講義でEBM(R)をレクチャすることになりますが、この機会を生かして、少しでも良い機会を学生と共有できるようにしたいと思います。
27. これからの医学図書館員にとって、入手した情報を十分吟味して、拡大している利用者(学内、院内スタッフだけでなく、地域医療従事者、市民、患者さんとご家族)に提供することは一番大切な技術ですが、それを教えてくださるワークショップであると思います。しかし、一回では学びきれず継続した研修が必要ですので、その機会を作っていただければありがたいです。すべての病院図書室司書がリサーチライブラリアンの力量を持つことが望ましいし、又きちんとした資格として認定されれば職場での地位も安定すると思います。盛り沢山な内容で、1.5日では短く2日は必要だったのではないのでしょうか。スタッフの皆様、本当にお疲れ様でした。
28. (事前の準備もほとんどして行かず、恥ずかしいのですが)ショックを受ける程の内容でした。医学図書館司書が、専門性を獲得できる1つの方向を垣間見たといった感じでしょうか。継続してワークショップが開催されれば参加したいです。また、地方の研修会(例:日本医学図書館協会東海地区開催のもの)でも可能なら実施していただきたい内容だと思います。
29. 今回日程が他の研究会と重なってしまいそれで出たいけれど出られないといっている人がかなりいました。
30. あらかじめ出来る範囲で下準備をしていくのだったと反省しています。今回初めての体験でとても理解する所まで行けませんでした。論文の見方などおぼろげにわかりかけましたので、出来れば継続して勉強させて頂けたらと思います。
31. 参加者は図書館員が多かったと思いますが、図書館員とEBMの関わり(どう関わったらよいか)や、先生方が図書館員に期待すること等聞くことができたよかったです。統計学等全く基礎知識を持っていなかったのも、予習には大変苦労させられました。
32. アンケートの返送が遅くなりまして大変ご迷惑をおかけいたしました。とても勉強になりました。ありがとうございました。
33. とても有意義なワークショップでした。事務局、福岡Drを始めスタッフの方々のご尽力に改めて感謝いたします。今回のWSの中級・上級コースなどはないのでしょうか?また是非参加したく今後共よろしくお願ひ申し上げます
34. まず、今回のワークショップを企画・運営して下さった先生方にお礼申し上げます。事前に配布された資料は一応読んでいったものの全くの知識不足で2日間が終わって何とか概要がつかめたという状況です。今は暇をみつけてEBMに関する文献を読みはじめています。このようなワークショップがあれば次回も参加したいと思っております。
35. 私にとってとても新鮮なものでした。ありがとうございました。
36. 今度参加する機会があったら、もっとよく予習をしていこうと思います。知識がほとんどなかったので、予習の仕方にもよくわかりませんでした。
37. とてもすばらしい会でした。無知識の私でしたが、ヒヤヒヤの2日間を終え、これからも、この会に参加させて頂きたいと思えました。1度では理解しづらい点が多くありましたので、回数を重ね、自分で批判的吟味ができるようになりたいです。参加させて頂きましたこと御礼申し上げます。
38. 2日間でもりだくさんだったので消化しきれないことがあります。2日目にEBM関係の基本書を紹介していただいたが、事前に教えていただくと、2日間の事をもっと理解できたのでは、と思います。統計についても、事前の知識が必要な部分が多かった気がしますので。ありがとうございました。
39. 批判的吟味のための教材を書籍やCDにして発行しては?
40. 猛暑の中でのワークショップ開催、大変なことだったと思います。関係者の皆様にお礼申し上げます。お世話になりました。
41. EBM関連のsgは、途中で終わる事が多いのですが、それで良いのでしょうか?臨床でも何でも、最後の1点、意思決定のために行なうのですが、その手前のもう一歩手前な気がする事が多いもので…1回の参加でも必要な所が理解出来る様にしてあげたい。